

28 リモン

(ボア戦争の後に)

然るべく両膝をふるわせ

こうべを垂れ いとも神妙に
祖国イギリスのために ふたたび
リモンの神殿に拝礼する

緞帳が開き トランペットが吹き鳴らされて

宦官役人どもが大音声^{だいのんじょう}を張りあげる
戦利品を腹一杯詰め込んだ 金ピカの衣の偶像が
傲慢無礼に 皆を睥睨^{へいげい}する

5

「こちらにおわすお方は畏れ多くも リモン神にあらせられる
みなのもの頭^づが高い 控えおろう」

俺は ともに戦った戦友たちが
吹き出しそうになるのをこらえている様子をうかがう

10

ああ目に浮かぶ あの灼熱の太陽と熱い砂漠と
石ころだらけの山道

我らの神など知らず からからに乾き嘲笑にみちた地に
たどり着く前に歩いたあの死の行軍

15

ああ目に浮かぶ 死んでいった戦友たち
百名にも及ぶ死者たちのことを

神命の正しさを信じたものの
その加護を受けなかったものたちのことを

20

重傷を負い 泣き叫べども救援は無く
神官はただ待てと命ずるのみ

そう命じつつ 神はぶらぶら出かけ惰眠をむさぼり
女と枕を交わした挙句 酒を喰らう

(汝リモンを讃えよ 王中の王たるリモンに栄あれ
大地と大空を支配するリモンよ

25

俺は 吊り香炉の揺れる中ふたたびひれ伏す
そして玉座の神はいなくなる)

ああ目に浮かぶ 神の聖典を収めたあの厨子^{ずし}を
神がみそなわすと思われる 30
暗闇と その奥の静寂に 跪^{ひざまず}く
徳高き人々のことを

リモンを引きずりだそうと押し入ったが
目にしたものは
腰のまわりに真紅と黄金^{こがね}の帯を佩^はいた 35
薄汚れた偶像が一体

そいつを槍の取っ手でひっくりかえしてやった
そいつと壮大な夢の絵図を
ラバ追いの嘲笑^{あざわら}の的に
我ら置き去りにされたものたちの笑いものにしてやった 40

犬ころが糞尿でよごした天幕の釘のそば
糞と埃にまみれリモンが横たわっていた
そのうち神官たちが飛んできて大騒ぎし
きれいにしてどこかへ連れていったのだ

弾劾される前に ことをきれいに隠し 45
神官たちは遠く離れた我らが故国に帰り
リモンを再び玉座に座らせた
こいつが我ら兵卒に輝かしい勝利をもたらしたと

なにゆえ両膝をふるわせ
こうべを垂れ いとも神妙に 50
祖国イギリスのため この糞たれの死に犬を
リモンの神殿で拜むのか

(柘井幹生訳)